令和２年度

四国防災共同教育センター

運営・評価委員会

議事録(案)

**日付**: 2021年2月26日(金)

**時刻**: 11:00 ～ 12:00

**場所**: 香川大学 本部3階 第1会議室　/　徳島大学 Zoomで実施

**進行**: 吉田 秀典 (四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構長)

# 出席者

香川大学：四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構　**吉田**機構長
四国防災共同教育センター　**長谷川**センター長

　　　　　四国防災共同教育センター　**黒田**副センター長

香川県：政策部　**石川**地域活力推進課長

徳島大学：理事(研究担当) 　**佐々木**副学長

環境防災研究センター　**中野**センター長

# 陪席者

香川大学：創造工学部　**井面**教授

危機管理先端教育研究センター　**松本**特命教授、**萩池**特命教授、

**藤目**客員教授、**近藤**事務補佐員、**豊島**技術補佐員、**久本**技術補佐員

研究協力グループ　**十川**リーダー、**上田**サブリーダー、**海老野**チーフ

徳島大学：環境防災研究センター　**上月**教授、**湯浅**助教

# 内容要旨

**開会挨拶**：**吉田機構長**

　　　この１年間は、４月に緊急事態宣言が発出され、対面講義が出来なくなり、急遽オンライで講義を行うことになった。皆様のご尽力により講義を継続して実施出来、感謝します。今年の４月からは、対面の比重を増やして行ければと考えていますが、引き続きご協力をお願いいたします。

　**議題**

１．令和２年度四国防災・危機管理プログラム事業報告

２．四国防災・危機管理プログラム 第７期生修了判定及び資格授与

３．令和３年度四国防災・危機管理プログラム運営計画

４．報告事項

# 議題１ 令和２年度 四国防災・危機管理プログラム 事業報告

事務局より、議題1の「令和2年度　運営スケジュール」、「授業報告」　について、説明を行った。

前期の講義は、4月20日からzoomによる遠隔講義で開始した。講義回数は、例年では16回であったが、遠隔講義の準備のため15回となった。第７期生の修了記念のシンポジウムを3月15日に実施予定。受講生のアンケートから、前期講義では「zoomやグループワークで使うソフトの使い方が分かりづらい」など遠隔講義の快適度が低評価であったが、後期講義アンケートでは、zoom操作に熟練し「遠隔でここまで出来る」という意見が出てきた。防災・危機管理実習の１日目は、対面＋webで実施し、ウェブカメラで作業状況を配信しweb参加者の意見はチャットを活用して集約を行った。

**〇吉田機構長**：膨大な資料での説明ですが、授業アンケートのスコアがオンラインの授業で良い評価となっているのは、皆さんのご尽力の成果だと考えます。

**〇質問・意見なし**

事務局より、議題1の「令和2年度　受講生アンケート」、「第１回・第２回企画委員会議事録」　について、説明を行った。

　受講生のアンケートは、今年は特に遠隔講義にテーマをおいたアンケートも実施した。前期講義では、講義内容の有意義さ、外部講師の有用性の評価が高かったが、受講生側の通信環境やマイク不調等により遠隔講義の快適度やグループワークの評価が低かった。後期講義の「防災・危機管理実習」の一部訓練や「PFA研修」で実施した対面＋web併用の評価が低かったが、全員webでの訓練では、「オンラインでもここまで出来るんだ」との意見があった。遠隔講義について、受講生の６％がタブレット、スマホで受講しており、「チャット、ホワイトボードなどの機能への習熟が必要」や、「カメラのonが良い」「offが良い」と双方の意見があった。また、社会人受講生の９割が講義資料を印刷して受講しており、「インク代が掛かるので、紙で配布して欲しい」との意見があった。

　企画委員会の審議では、2021年度の募集要項に「遠隔講義による受講環境を提供する」と明示することや、今後圏外、関東圏、関西圏からもオンラインで参加できる仕組みをもつ検討を進めることになった。「遠隔講義を土台とし、集まる必要がある場合は対面で行うことは良い」や「災害・危機管理マネージャーのフォロー強化・ファシリテーター等への活用をさらに考えるべき」などの意見があった。

**〇吉田機構長**：遠隔講義において、スマホでの参加はトラブルが多いのでPCでの参加を推奨している。講義資料の印刷については、目の問題もあるので社会人の印刷の比率が高くなっているのでは。紙での配布は、環境問題の観点から少し様子を見てほしい。圏外からも履修出来るよう体制を確立していった方が良い。

**〇質問・意見なし**

# 議題2 令和２年度 四国防災・危機管理 プログラム修了判定及び資格授与

事務局より、プログラム修了要件ならびに修了予定者、修了証書(案)、災害・危機対応マネージャー資格認定証について説明を行った。

別紙として、修了予定者２２名の成績一覧を配布した。運営評価委員が同成績を確認し、２２名の修了が運営評価委員会で承認された。

**〇吉田機構長：**今年の修了証書の日付については問題ないか？

**〇事務局(松本)：**日付は、運営・評価委員会の後、徳島大学の教授会の後で、修了式である人材養成シンポジウムの開催日である3月15日とした。

**〇中野先生：**徳島大学の教授会は、3月5日の予定なので、日付は問題なし。

**〇吉田機構長：**徳島大学の大学院生の専攻名は、知的学力システム工学でなく知的力学システム工学なので、修正ください。

**〇吉田機構長：**修了証書、災害・危機管理対応マネージャー認定証はこの案でよしとします。

# 議題3 令和３年度 四国防災・危機管理プログラム 運営計画

　事務局より、令和３年度四国防災・危機管理プログラムの運営スケジュール及び授業カリキュラムが提示された。またプログラムの広報活動、応募要領、応募見込みについて報告があった。

　前期講義は、4月12日よりスタートし、各科目例年通りの16回実施予定。防災・危機管理実習は、11月に１泊２日で四国電力総合研修所にて実施予定。BCP講義の演習は、対面でなく遠隔講義の場合、より学習効果が大きい２大学混合の班編成で実施予定。なお、授業日程は、現在のところの案です。講師都合により講義日の変更など調整が出る場合があります。

　広報活動は、ホームページにより募集の情報発信を行い、修了式でもある人材養成シンポジウムを3月15日にYouTubeによるオンライン配信で行う予定。また、プログラムパンフレット、履修の手引をつながりのある所へ香川県内約２５０箇所、徳島県内約５００箇所に配布した。

　運営・評価委員会開催時点（２月２６日）で、来年度プログラムへの社会人応募状況は、香川大学５名、徳島大学４名となっている（人事の都合上受講申請が３月下旬となる行政機関の応募見込みを含む）。4月の大学院生向けにガイダンス等によりPRし、大学院生の受講生を募集する。

**〇吉田機構長：**現段階でこの運営スケジュールで認めていただけるということで良いですか？

**〇質問・意見なし**運営スケジュールが認められた。

**〇吉田機構長：**来年度の応募状況について、香川大学の社会人の応募が例年比べ低調なのは、なにか原因があるのですか？

**〇事務局(松本)：**防災士養成講座でのPRが、例年では２月に実施出来、募集時期と重なっていたので応募に繋がったが、今年度は、コロナの影響で１１月で終わってしまったため、応募に繋がりにくかったのではないかと考える。

**〇事務局(湯浅)：**徳島大学は、厚労省の専門実践教育訓練の指定を受け、来年度から費用の最大70％の教育訓練給付金を受給できるようになったので、PRしていきたい。(香川大学は令和２年度から指定されている)

**〇吉田機構長：**引き続き来年度に向けて、広報活動を進めてください。

# 議題4 報告事項

事務局より、来年度四国防災共同教育センター長、副センター長の変更について説明があった。さらに、厚生労働省の専門実践教育訓練給付金の対象講座に徳島大学が新たに認定され、令和３年度から入学料、受講料などの最大70％の給付金を受給できるようになったことが報告された。(香川大学は令和２年度から)

**〇吉田機構長：**四国防災共同教育センターの令和3年度のセンター長、副センター長は、新しい危機管理教育先端研究センター長、環境防災研究センター長を候補として、その人事が明らかとなった段階でメール審議いただく予定。

**〇**センター長等変更の件及び厚労省の教育訓練給付金について**質問、意見なし**。提案通り進めることになった。

**〇吉田機構長：**全体を通じて何かご意見はございませんか？

**〇中野先生：**全国からの応募者(受講者)への広報の方法を考えなければならない。遠隔講義を中心で受講するというリーフレットを作製するとか、ホームページに受講の仕組みの紹介を見ていただけるよう検討を早めに進めてほしい。令和４年度に向けて、宣伝活動の戦略を練っていただきたい。

**〇佐々木理事：**コロナ下において、web講義等をうまくやっていただき非常に良かったと思うと同時に皆様のご尽力に感謝しています。

**〇香川県石川課長：**遠隔授業でいろいろ工夫されて実施されているかと思いますが、来年度も充実した形で取り組みがなされていければ良いと思います。県の方も出来ることを協力させていただきます。

**〇退任の挨拶**

**〇中野先生：**平成２４年に本プログラムの採択、平成25年度からこのプログラムに白木先生と一緒に関わらせいただきました。２大学で連携して遠隔講義をしていくことは、私にとっても初めて体験でした。最初のうちは音声が上手くつながらなかったりいろいろなトラブル続きであったが、その間にも例えばweb会議システムとの併用とかいろんな試行を積み重ねてきた。その経験が今年度の新型コロナ対策の中でかなり有効に働いたと思っています。一方で、これまでしっかりと継続出来たことは有難い事だと思っています。今後もこの四国防災・危機管理プログラムが、四国全体はもちろんのこと、他の地域と連携しながら発展していくことを願っています。長い間お世話になりました。

**〇終わりに**

**〇長谷川センター長：**本日いただいた意見や修正内容については、事務局で責任を持って修正して進めていきます。来年度も引き続きご指導ご鞭撻をお願い致します。これで令和２年度四国防災共同教育センター運営・評価委員会を終了致します。

以上